

光星、明石商(西兵庫)と初戦

全国高校野球 11日の第2試合

5日に開幕する第100回全国高校野球選手権の組み合わせ抽選会が2日、大阪市のフューチャールホールで開かれた。2年ぶりに出場する本県代表の八戸学院光星は大会7日の11日、午前10時からの第2試合(1回戦)で、西兵庫代表の明石商(初出場)と対戦することが決まった。

八学光星ナインは2日、グラウンドで練習を行
午前、大阪府箕面市の履 った後、午後4時からの
正社スポーツ専門学校内 抽選会に臨んだ。

光星の長南洋主将は
予備抽選の結果、出場56
校の最後に抽選、最後の

(高松拓輝)

一枠に入る形となり、笑顔の選手や淡々とした表情の選手もいた。長南主将は自分で(対戦カードを)引きにくく決めていたので、予備抽選で56番目を引いたときはやってしまったと思っただけ、と苦笑い。初戦については「どんな相手でも自分たちの野球を全力でやるだけ」と意気込みを見せた。

監督、主将コメント

データ取り対策練る

八学光星・仲井宗基監督

第7日というところで時間はある。まず相手がどどういうチームなのか、今日からしっかりとデータをとり対策を練りたい。その上で、選手たちには打たなければ勝てない、と

全力プレーで応える

八学光星・長南洋主将

(明石商は)地元のチームなので応援はすごいと思うけど、青森から応援にきてくれる方々の



最後の一枠に光星の名前が入り、盛り上がる八学光星ナイン

ためにも全力プレーで応えたい。地区大会を勝ち抜いているチームなので油断はできない。相手に関係なく自分たちの野球をしてベースをつくる。

粘って1点でも多く

明石商・右田治信主将

(八学光星は)攻撃力がある強豪校。自分たちは常に最後のプレーと思っ
て県大会を勝ち抜いてきた。投手陣を中心に、守りの野球で終盤まで粘り、1点でも多く取る。初めは思っただけ、バント、エンドランなど、どんな状況でも全ての選択肢をい

光星 甲子園だより

中村 優惟 投手(3年)



鋭く沈むスライダーが武器の本格派右腕。大阪入り後の練習では「徐々に調子は上がっている」ことを実感。ホテルでは

花巻東と同郷対決を

甲子園優勝時の動画を
見て過ごし、食事や室温
にも気を遣うなど体調管
理にも余念がない。
2日の抽選会では「地
元と一緒に野球をした」
という花巻東(岩手)の
選手らと再会。初戦で対
決とはいかなかったが
「お互いに勝ち上がり、
甲子園で戦ってみたい」
と決意を新たにしたり。
(岩手県・長内中出身、
173センチ、78キロ、右投
げ右打ち)